



菅原武蔵

菅原武蔵

伊地知文庫
文庫20
184



左ノ右傍朱ニハ因書寮旧鷹司家本以況集内一本ニ據テ概略注付了
昭和十二年四月

伊哲

伊地知氏書冊

連歌古撰百首の中事蒙作の如く成りたる様中と九年

一毛大馬の二はり前と之類とら及ふもの

とめはゆくとどして他人の事なむとあり

と事先度御目につけての程由居る様和尙なれば殊に

と事先度御目につけての程由居る様和尙なれば殊に

と事先度御目につけての程由居る様和尙なれば殊に

と事先度御目につけての程由居る様和尙なれば殊に

と事先度御目につけての程由居る様和尙なれば殊に

と事先度御目につけての程由居る様和尙なれば殊に

と事先度御目につけての程由居る様和尙なれば殊に



あゝーっいとおと水はあらまよるよ吉中右
重とそそ世この風情も昔のよの舟始末
千舟のの係情を心の流利夜かきも非
波の波のよーあゝと霧を仕寄のあれあえ
をいふたはもれも思言まよるなわ人
たもあんたもわらわらぬも新編又作
つとん幸か三を徒に問自然言庄。
いひつらへんしは舟の心
五束のたまを却も作れははしくたまの襟に申ふし
花あまらぬを命のたふとわらぬは昔こし
いふのよもつらるも我らよ
ほつわわ我の増えつらえ
は理もあのかは入善法に悪くもまひて
さうもわつれし種かよも事らもなれ事務
いふ初心のるもまは信するをせむのぬ
まよるいんく松の事んち
まよのあもまよるはまよる
まよるちぬちぬちぬ
まよるちぬちぬちぬ
まよるちぬちぬちぬ

既東山殿侍候にて都部に申ハ砂原伊賀入道ふとも申サレト

通大書にまよる人書言付はまよる

おまへんやうに申入

此れは

下

傍石也人に

友ならにのりていふるる

ちよのりていふるる

ちよのりていふるる

ちよのりていふるる

ちよのりていふるる

ちよのりていふるる

ちよのりていふるる

ちよのりていふるる

ちよのりていふるる

ちよのりていふるる

ちよのりていふるる

ちよのりていふるる

ちよのりていふるる

ちよのりていふるる

ちよのりていふるる

ちよのりていふるる

ちよのりていふるる

ちよのりていふるる

ちよのりていふるる

うまのりていふるる

ちよのりていふるる

ちよのりていふるる

乙女

又宗祇公の秋句に

花見見は人あき雨の夕かな
 二おのの今をさうしも都と
 水のむとさよらぬぬきうれ
 風やうあぬらうぬ一あふ
 さらこれ風やうさうさのを
 入道我はる年のする
 身ははるもくわさうしよ

私田はせりハ
類ハ主麻也

声して人の行く山本
駒わたす杉木の橋のあやうまに

独持蕨のたのろくろり
 うめさうさう姑の心道
 さら入神のあまおらうしん
 たうさうさう物もさうさあ
 西風のるれつ後入風は
 かきうさうさうの入おの積
 さらはる轉はるのあまら
 さらう世風やうれはら
 ありくの神門あはるま
 いのの神ぞおたうたうら
 さらののののの

今もふぬかめしむるの形あるもちある
君も下関を越すとていかに行く事もある
かきすんかきすんかきすんかきすん
侍 けうんめは中め飛つた一をを遊し
その侍し日の本塔細物のおもひの事
たてま奇きののりうされの紙のう。

教 嶋
く聖の天塊ありしとせれ事
おもしろいことやとの事あり

一連歌身初の事とておの事通の事の中
田りとも然らざるがともおとけりゆし

○又連歌のすきり、懐中なとかうほうに所望侍て書被ふと召れて功者にも侍尋れへ
又句可然をあらはしうつし事、教、生、の、見、之、自、然、人、と、尋、申、時、か、たり、ち、か、へ、ハ、
比、興、に、て、外、奈、句、秀、逸、の、句、ハ、ふ、こ、ハ、ハ、忘、れ、果、て、自、然、覚、悟、も、作、者、の、辛、勞、は、
さてにはふこ語ちかへふこハ、口惜きことにて外てにはハ、一もてよくもふりけんか、
悉もふり侍りし如此事、器用、無器用、によ、肝、要、し、と、云、々、又、て、に、ま、は、の、事、處、所、
と、も、事、し、か、る、へ、さ、好、士、あ、ひ、侍、り、に、更、に、知、人、ふ、し、都、の、ほ、こ、り、に、も、作、者、多、く、侍、り、
大、内、才、に、よ、る、へ、く、ハ、故、大、形、の、お、も、む、さ、は、お、り、か、き、け、侍、り、ん、や、是、は、宗、祇、公、よ、り、
述、べ、承、れ、を、え、ら、い、付、侍、り、ん、ゆ、め、く、不、可、有、他、見、

此具もけりし自然の事
考ししは或は死或は生は法を新様を
の付、毎、こ、し、ん、の、こ、し、の、お、も、む、之、概、量、を、
仕、
手、の、方、へ、
危しと云ふも、
日、二、白、ち、の、白、れ、一、白、も、二、白、も、所、
必、委、色、ち、と、も、物、也、り、た、物、也、

其、
當、
誰、
め、
心、
神、
侍、

Handwritten notes in red ink at the top of the page.

今もあぬわぬのゆへにその形勢もいかに
事^{肝要}なる事なれどいかに進む事なれど
かきつらしきことなしにわかれぬれば
侍^侍けんめいは申せぬ所を言はずして
それゆへに日本の本柄細物おしりつと
たてき奇きのみづからいかに紙のふら。
敷^敷の天姥わしとせぬ事

おもしろいことわざの集め

一連歌身形の事なすの事道の事^物おの
ゆへにたれなることなしに新しとゆへ

ら東^侍し^物勝事ことしともいふより
候^候定^候日^候候^候
はあらしの候にたてて又脇すことなし
其^其筋^筋の事自然客未と下儀成^儀興^興行^行之^之時^時の^事
其^其筋^筋の事自然客未と下儀成^儀興^興行^行之^之時^時の^事
当^当座^座に^に儀^儀作^作り^り無^無勿^勿終^終小^小用^用心^心あ^ある^るは^はま^ませ^せ也^也
危^危し^して^て言^言は^はれ^れる^る事^事の^の事^事な^なれ^れば^ば一^一日^日に^に見^見え^える^る事^事
日^日の^の事^事の^の事^事の^の事^事の^の事^事の^の事^事の^の事^事の^の事^事
必^必ず^ずも^もな^なる^る事^事の^の事^事の^の事^事の^の事^事の^の事^事
誰^誰も^もな^なる^る事^事の^の事^事の^の事^事の^の事^事の^の事^事

丹波の女はあはれなるこころのあはれなるこころ
 とよむるおぼゆるはあはれなるこころのあはれなるこころ
 松のあはれなるこころのあはれなるこころのあはれなるこころ
 山にさかすまのあはれなるこころのあはれなるこころ

一 夕べのよもぎはあはれなるこころのあはれなるこころ
 夕べのよもぎはあはれなるこころのあはれなるこころ
 夕べのよもぎはあはれなるこころのあはれなるこころ
 夕べのよもぎはあはれなるこころのあはれなるこころ

一 夕べのよもぎはあはれなるこころのあはれなるこころ
 夕べのよもぎはあはれなるこころのあはれなるこころ
 夕べのよもぎはあはれなるこころのあはれなるこころ

一 夕べのよもぎはあはれなるこころのあはれなるこころ
 夕べのよもぎはあはれなるこころのあはれなるこころ
 夕べのよもぎはあはれなるこころのあはれなるこころ

夕にふく花さなぬのワノ
 月をけたましかり
 夕にふく花さなぬのワノ
 月をけたましかり
 夕にふく花さなぬのワノ
 月をけたましかり
 夕にふく花さなぬのワノ
 月をけたましかり
 夕にふく花さなぬのワノ
 月をけたましかり

いしや人と申す
下
田
下
田
田
田

いしや今もまをた山にり

いしや今もまをた山にり

一 現のりあはしき
まはこと、あはしき

まはこと、あはしき

けーあ子たもく一白難牛のまをた山にり

まはこと、あはしき

まはこと、あはしき

まはこと、あはしき

まはこと、あはしき

まはこと、あはしき

まはこと、あはしき

まはこと、あはしき

まはこと、あはしき

まはこと、あはしき

まはこと、あはしき

まはこと、あはしき

まはこと、あはしき

まはこと、あはしき

まはこと、あはしき

たもとんんらうる後うす

うすあたるうすうすうすうすうす

一うすうすうすうすうすうすうすうすうす

はせうすうすうすうすうすうすうすうすうす

あうすうすうすうすうすうすうすうすうす

うすうすうすうすうすうすうすうすうす

あうすうすうすうすうすうすうすうすうす

あうすうすうすうすうすうすうすうすうす

あうすうすうすうすうすうすうすうすうす

あうすうすうすうすうすうすうすうすうす

あうすうすうすうすうすうすうすうすうす

うすうすうすうすうすうすうすうすうす

うすうすうすうすうすうすうすうすうす

うすうすうすうすうすうすうすうすうす

うすうすうすうすうすうすうすうすうす

うすうすうすうすうすうすうすうすうす

うすうすうすうすうすうすうすうすうす

うすうすうすうすうすうすうすうすうす

うすうすうすうすうすうすうすうすうす

うすうすうす

右ノ元方代々ノ人亦精々幸々教一法不有
之亦多自他々早業之也
以治之年亦得之解

本書者無窮會本選歌書目據レバ
畠山信重ハ返凡ト有

